

## 2024年度 第2四半期 決算説明会 質疑応答 (要旨)

### **Q1) 航空事業における上期(4~9月)の実績について、売上高・費用別に計画との主な差異を教えてください。**

- A1) ・ 上期は好調な需要を取り込んだことで ANA 旅客事業の収入が計画よりも上振れました。この結果、営業利益は当初計画から+40 億円上回りました。
- ・ 売上高・営業費用の主な計画差異は以下の通りです。  
[計画差異の内訳(航空事業、上期(4~9月))]  
売上高： +120 億円  
(国際旅客+90 億円、国内旅客+65 億円、AirJapan▲35 億円 など)  
営業費用： +80 億円  
(整備費+65 億円(為替影響、エンジンの取り直し増加) 貨物チャーター+10 億円 など)

### **Q2) 下期修正計画について、業績の上振れ余地はありますか。**

- A2) ・ 旅客事業は、国内線と国際線の両方で足元の予約動向は堅調に推移しています。
- ・ また、燃料の市況が下期修正計画よりも低い水準で推移していることも、ポジティブな要素と考えています。

### **Q3) 下期修正計画の旅客事業について、当初計画からの変更点を教えてください。**

#### A3)[国際旅客]

- ・ 単価面では、全体の旅客キロの構成比が大きい北米路線とアジア路線のイールドが、為替の影響も背景に当初の計画よりも向上したことで、全体のイールドが当初計画比で上昇しました。
- ・ 一方、旅客数はホノルル線を中心に日本発レジャーの需要回復が想定よりも遅れていることを、修正計画に反映しました。
- ・ 今後も日本発着の高単価な旅客の獲得に注力しながら、売上の拡大に努めていきます。

#### [国内旅客]

- ・ 堅調なレジャー需要を早期に獲得しながら、旅客数と単価のベストミックスを追求する方針を下期も継続していきます。

**Q4) エンジンの整備機会の増加による業績への影響を教えてください。**

- A4) ・ PW エンジンの整備機会の増加と為替影響による単価上昇により、整備費は当初の計画よりも増加する見込みですが、修正計画に反映済みです。
- ・ 現在、B787 ではエンジン部品の交換により稼働機が逼迫していますが、現時点で減便などには至っておらず引き続き運航への影響を最小限に抑えています。

**Q5) 2025 年度に営業利益 2,000 億円の目標を達成するためのポイントは何ですか。**

- A5) ・ 中計目標の営業利益計画 2,000 億円の達成に向けて、利益率の高い国際旅客で生産量を拡大し需要を獲得していくことが、重要と考えています。
- ・ 国内旅客も堅調なレジャー需要を早期に積み上げるとともに、搭乗日間際の高単価需要を着実に獲得することで旅客単価を上げながら利益向上に努めていきます。
  - ・ また国際貨物では、NCA の連結化に伴う収益機会の拡大に向けて適切に対応していきます。
  - ・ 来期の費用は今後検討・精査していきますが、固定費のコントロールを確実に行っていきます。

以上